



青少年における集合的効力の測定と健康関連指標との関係

科研費
KAKENHI

aSUN09 高倉実(琉球大学医学部), 宮城政也(琉球大学教育学部), 上地勝(茨城大学教育学部), 小林稔(京都教育大学教職キャリア高度化センター), 栗原淳(佐賀大学文化教育学部)

背景

近年、ソーシャル・キャピタル概念の敷衍とともに、地域の力といった言葉に代表される集団の力の健康影響が注目されている。一般に、ソーシャル・キャピタルの構成要素である信頼、互酬性、ネットワークから得られる社会的凝集性(social cohesion, 以下SC)やインフォーマルな社会的統制(informal social control, 以下ISC)が集合的な効力(collective efficacy, 以下CE)となり、人々の健康や安全に影響するというプロセスが考えられる。青少年の主な社会集団として学校と近隣地域があげられるが、ヘルスプロモーションを効果的に推進するためには、青少年における集団の力である「学校力」と「地域力」を学校および近隣地域のCEとして捉え、それらの同時的な健康影響の解明が求められる。

本研究では、青少年の学校および近隣における個人レベルのCEを測定する尺度を作成し、健康関連指標との関係を検討した。

方法

- 便宜的標本として、沖縄、京都、茨城から選出した公立高等学校6校の計39学級に在籍する生徒1,471名を対象に無記名質問紙調査を行った。そのうち1,378名から質問紙を回収した。
- CEはSampsonら(1997)の尺度を参考に、学校および近隣におけるSCとISCから構成した。SCはTakakuraら(2014)の認知的ソーシャル・キャピタル尺度を適用し、ISCは独自に18項目を選定して、それぞれ5件法(1~5)で評定した。
- 健康関連指標は主観的健康(1~4)、現在喫煙(0,1)、現在飲酒(0,1)、学校安全性(1~5)、近隣安全性(1~5)を用いた。
- 尺度作成の手順は、1) ISC項目を項目分析により精選、2) 精選されたISC項目について因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行い、因子的妥当性を検討、3) 因子負荷量0.5以上の項目から尺度構成し、内的整合性(Cronbach α 係数)を検討、4) ISC尺度とSC尺度との関連から併存的妥当性を検討、5) ISC尺度、SC尺度、これらを総合したCE尺度と健康関連指標との関連から予測妥当性を検討した。
- 本研究は琉球大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

結果と考察

- ISC項目のうち、項目-全体相関が0.6以下の5項目を除外した。
- 残りのISC13項目について因子分析を行ったところ、2因子が抽出され、学校ISC尺度(7項目)と近隣ISC尺度(6項目)とした(表)。各々の α 係数は.92と.90で、十分な内的整合性を示した。
- これらは学校や近隣において、公共の利益のために、または何らかの問題に対して人々が何らかの行動を起こすという共有された期待を表すことから、**因子的妥当性が確認できた。**
- 学校や近隣のISCと学校や近隣のSCとの間に正の相関がみられ(.32~.59)、**併存的妥当性が確認できた。**
- SC, ISC, これらを総合したCEの健康関連指標に対する**予測的妥当性**を検討したところ、概ね予期した方向の関連がみられた(表2)。

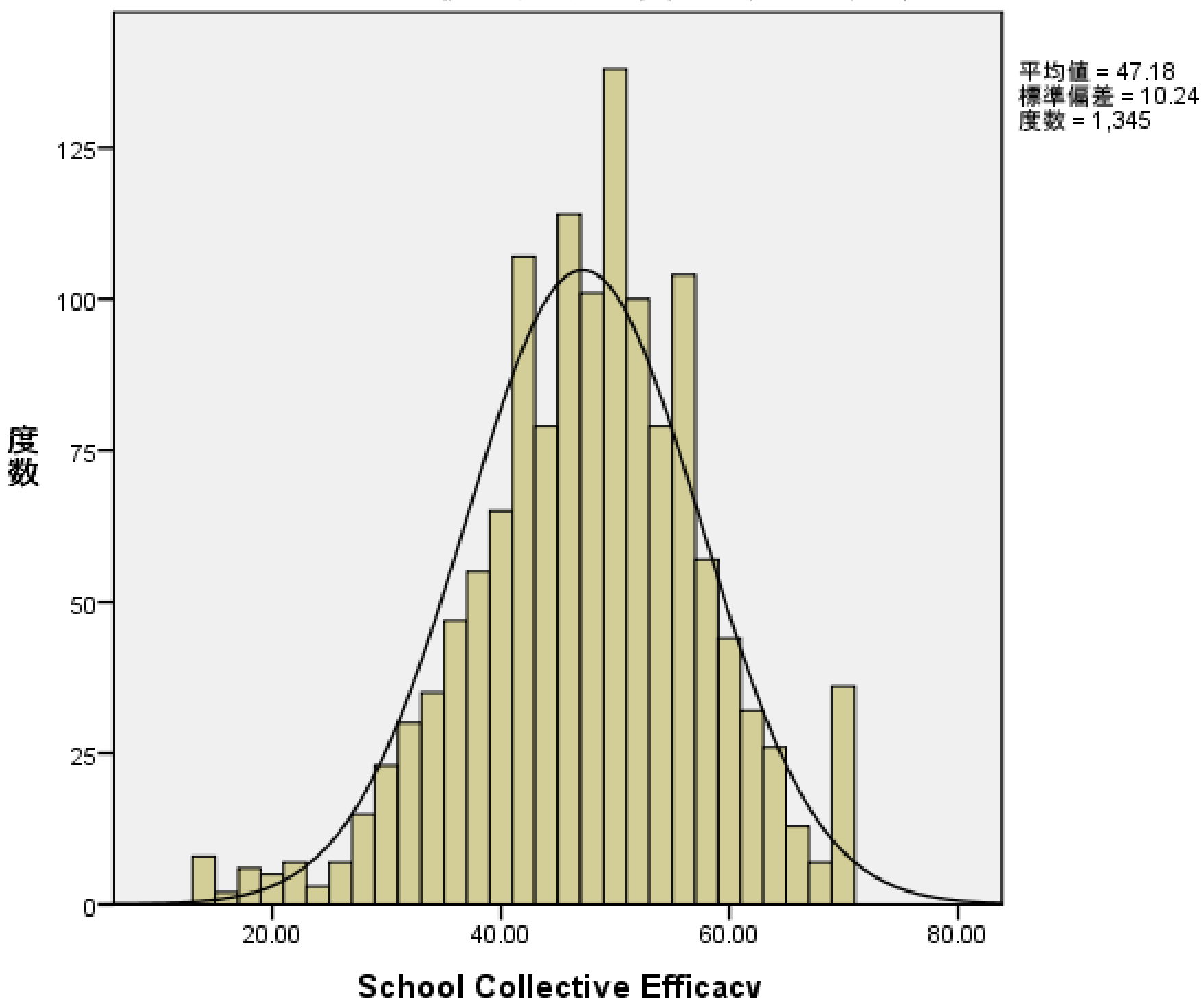
表 インフォーマルな社会統制に関する項目の因子分析結果(最尤法, プロマックス回転)

	因子1	因子2
もし同級生がたばこを吸っていたら、私の学校の生徒は、それを何とかしようとするだろう	.956	-.036
もし同級生がお酒を飲んでいたら、私の学校の生徒は、それを何とかしようとするだろう	.947	-.014
もし同級生が学校をさぼって街中をぶらぶらしていたら、私の学校の生徒は、それを何とかしようとするだろう	.781	.024
もし同級生が先生に失礼な態度をとっていたら、私の学校の生徒は、その生徒を注意するだろう	.742	-.001
授業中に生徒が騒いだり、授業の妨害をしたとき、私の学校の生徒は、それを何とかしようとするだろう	.635	.073
もし同級生が友だちをいじめていたら、私の学校の生徒は、それを何とかしようとするだろう	.631	.030
私の学校の生徒は、問題が起こったとき、みんなで協力して解決しようとするだろう	.601	.046
もし生徒がたばこを吸っていたら、近所の人々はそれを何とかしようとするだろう	-.061	.961
もし生徒がお酒を飲んでいたら、近所の人々はそれを何とかしようとするだろう	-.054	.955
もし生徒が大人に対して失礼な態度をとっていたら、近所の人々はその生徒を注意するだろう	.022	.747
もし生徒が学校をさぼって街中をぶらぶらしていたら、近所の人々はそれを何とかしようとするだろう	.075	.682
近所の人々は地域の治安をよくするために協力するだろう	.057	.581
近所の人々は街のイメージをよくするために協力するだろう	.116	.525
	固有値	6.3 2.4
	寄与率	48.8 18.3

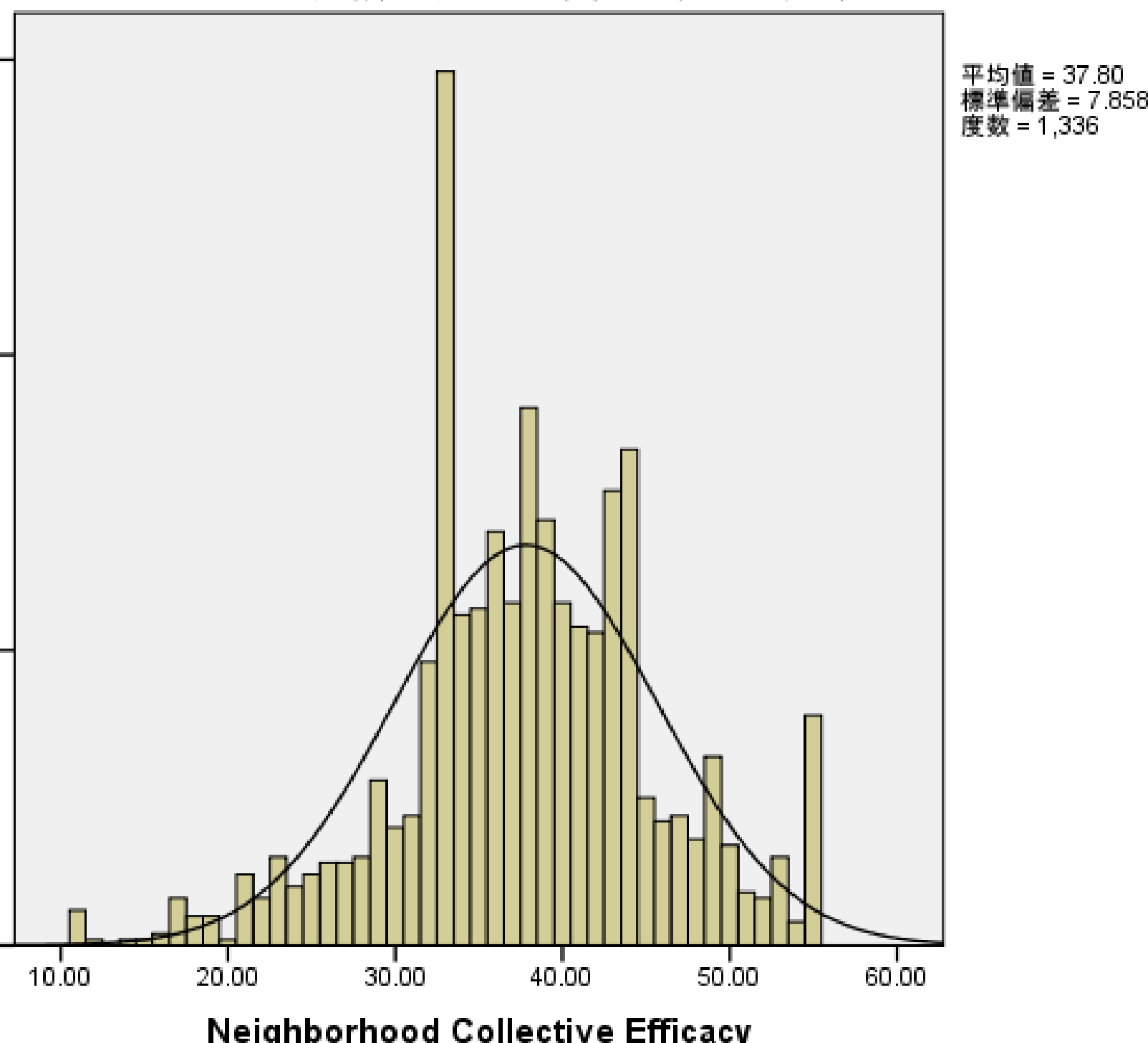
表2. 学校と近隣におけるSC, ISC, CEと健康関連指標との関連

	主観的健康	現在喫煙	現在飲酒	学校安全性	近隣安全性
学校SC	-.273**	-.003	-.057*	.639**	.340**
近隣SC	-.207**	-.013	-.024	.290**	.571**
学校ISC	-.182**	-.012	-.069*	.428**	.228**
近隣ISC	-.133**	-.044	-.057*	.207**	.387**
学校CE	-.246**	-.016	-.072**	.591**	.316**
近隣CE	-.179**	-.037	-.049	.281**	.543**

学校における集合的効力の分布



近隣における集合的効力の分布



ISCの健康影響に関する先行研究の知見は一致していないが、本研究では、SCに比べて弱かったが、ISCは健康関連指標と予防的な方向の関連が認められた。同様に、総合したCEは健康関連指標と関係していたことから、健康関連研究での使用可能性が示唆された。今後は集団レベルでの検討が必要となる。

文献

Sampson et al. *Science* 1997; 277: 918-924.

Takakura et al. *School Health* 2014; 10: 1-8.

(本研究は、JSPS科研費15H03087の助成を受けた)